

夢の設計図

やりたい仕事や実現したい夢 **国際連合の食糧農業機関** その仕事や夢を選んだ理由 **母がUNHCRにほ金しているため、世界の問題についてきたから。**

その仕事や夢を実現するために必要な条件(資格など)や力、お金はなんだろう
ロボット工学で修士号をとる。
食料をドローンで安全にきょう給するため。

年齢	必要な能力を身につけるためにやること
12歳 小学校	英語力を上げ、中学で英語力をたくさんつけるために中学の勉強の先どり
13歳 中学校	英語力向上
16歳 高校	海外の高校へ行き、高1、高2はもぎ国連をうける。大学にすいせん状をかいてもらえるようにする。
19歳 大学	大学入学
22歳	ロボット工学の修士号を取るとし、その業
25歳	機械にまつわる仕事でけんをっむ。
25歳	採用試験を受ける
25歳	国連の食糧農業きかんに入る
?	ドローンをつくりあ'わる
?	実さいに現地でつか'てみる

仕事以外であなたが大人になったらやってみたいこと、実現したいこと
 ・大きなけん家にすむ
 ・犬がねこをかう
 ・スイスに住む

当たり前なんてないから

筑波大学附属小学校 五年 三谷 桐子

「世界には、ご飯を食べられない子がたくさんいるんですよ。」
 これは、母が幼少期の私にくり返し、何度も何度も言っていた言葉だ。

「のこさず食べなくちゃだめ。」
 ではなく、母はいつもそう言っていた。UNHCRにほ金している母が、私の夢に大きく関わっているのは確かだ。私は母から世界中で苦しんでいる人たちの現状が書かれた冊子を見せてもらった。きれいな水が飲めない、ご飯が食べられない。食べ物、水の問題以外にも、私にとっての当たり前が当たり前ではない状況の中で生きていく人がたくさんいるのだと、私はその時初めて知った。

こんな事が同じ地球上でおきているなんて信じられなかった。きれいな水が飲める事、ご飯が一日三食たべられる事が、全く当たり前ではないと知った。そんな人たちがたくさんいるのなら、めぐまれ

た先進国に生まれた私にできる事はないのだろうか。そう考えてから、国連で働くことが私の目標になった。

国連で働く以前に、今小学生の私ができる事として、ペットボトルキャップを集めてワクチンにする活動に参加している。また、この活動をしている会社は、母子・父子家庭の支援をする「こども食堂」という取り組みもしていて、私もどけた食糧や水で、たくさんの人たちが安心して食事できる食卓を増やしていけたらいいと思う。食べられる事、飲める事、そしてその先に安心できる食卓がある事、それが私の目指す食糧支援である。

どうやって食糧や水を安全に確実に運べるだろうかと想像している。食糧や水をとどけなければならぬ国は、国内で争いがおきており、地雷などがうまっている危険な道を行かなければならない。しかし、そんな道歩く勇氣は正直私に

はない。では、送る側も受け取る側も安全な方法はないのか。私はロボットをプログラムすることが好きで、問題解決のプログラムを考えるのが得意だ。ロボットやドローンを応用して空から運ぶ方法を追求することも可能だと考えている。

このように、食糧支援と自分の得意な事を結びつけて色々な方向から活動のやり方をさがしたい。しかし、実は重要なのは「国連」でも「ドローン」でもない。たしかに、国連に入れば大がかりな活動でたくさんの人を助けられるかもしれない。ドローンを使えばこう率がいいかもしれない。しかし、それより大切なのは、「世界中の人に安心した食卓を囲んでもらって、笑顔になつてもらおう」という事だ。私のようにめぐまれていて、いつも同じ食卓で安心して一日三食を家族とたくさん話しながら食べられる人ばかりではないなら、私と同じように食事ができる人を一人でも増やしたい。安心して、笑顔で、楽しく食事ができる人を増やし、世界中の人に食事を楽しんでもらうのが、私の本当の夢だ。

*こちらは、小学生『夢をかなえる』作文コンクールの「ライフプランシート」としても使えます。